

『家庭と学校で一緒に子どもを育てる』

学びのてびき

豊能町立光風台小学校

本冊子「『家庭と学校で一緒に子どもを育てる』学びのてびき」を保護者のみなさまに配付させていただきます。元々、本内容は教職員が年度初めに教職員全員で指導方法等の内容を確認・共有しているものです。その内容を保護者のみなさまにも配付させていただいた目的は2つ。1つ目は、学校が何を考え、どのような方法で子どもたちに学習面および生活面で力をつけていこうとしているのかを今まで以上にご理解を深めていただきたいということ。2つ目は、「家庭教育の重要性」をあらためて再確認していただきたいということです。学校教育だけでは、子どもたちの力を育てていくには限界があることは言うまでもありません。しかしながら、保護者のみなさんとともに同じ方向性をもって指導ならびに支援することができれば、子どもたちがさらに力を伸ばしていくことができるのではないかと考えました。

教師という主語を「保護者」に、「学校」を「家庭」に読みかえながら、是非ご一読ください。そして、ご家庭でも取り入れられるところから学校の取組みと同じ方向性をもって一緒に進めていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

学校長より

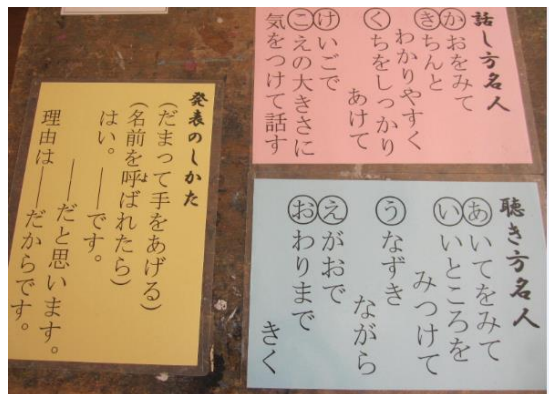
1. 授業規律

1. 時間を守る（ノーチャイムなので、時間を見て行動する）
 - ・10分休憩…「休憩」ではなく、「学習準備」の時間。トイレ、お茶、学習準備、移動教室への移動を行う。
 - ・授業の始まり、終わりを守り、休み時間と学習時間のけじめをつける。
2. つくえの上はすっきりと。
 - ・机の上には、学習道具のみ…前の授業のものやプリント類、水筒、本、工作？などなど…関係ないものはおかない。）
3. 授業の始めと終わりには、あいさつをする。

「起立、気をつけ、今から～始めます。着席」
4. 姿勢…ピン・ピタ・グー



5. 授業を聞くとき・話すとき
 - ・温かい聴き方・優しい話し方（教師も子どもも）
 - ・話し方名人、聴き方名人、発表のしかた
 - ・「はい、～です。」指名されたら返事、立って発言
 - ・声のものさし



☆しっかり聞ける子に・・・(自分から「聞こう」とする子に)

話を聞いているふり…にさせていませんか？

「話を聞く」→1回で聞ける子に…。

→先生の話「も」、友達の話「も」聞ける子に…。

→聞いて、話しの内容(中心)がわかる子に…。

→聞いて、考えたり、感想がもてたりする子に…。



そのためには

- ①体を向けて
- ②姿勢を正して
- ③目と耳と心で
- ④聞くときは何ももたないで (「聞く」ことに集中させる)

できるようになってきたら

- ①うなづく、あいづちをうつ
- ②友達の意見や発表に、質問をしたり、感想を言ったり…。
- ③友達の意見につなげて発言する



ただ・・・子どもたちに要求ばかりはできません。

教師の話し方が重要！

- ・短く。(だらだらは×)
- ・メリハリをつけて。
- ・緩急をつけて。
- ・時には、子どもが納得する理由を添えて。「～だから、～が大事だよ。」など
- ・時には、子どもに考えさせて。「どうして、先生はこんなふうに言うと思う？」など

視覚からの情報のほうがわかりやすい子もいます。



…プリントを配ったらやるけど…。
課題を言ったらやるけど…。

話を聞いてないなあ…、
自分で勉強しようとする姿勢がないなあ…
とならないようにしたいですね。

だれが前に立っても、
話を聞けるように
していきましょう！



2. 宿題（家庭学習）

（目安は学年×10～20分）

①宿題の目的

信頼関係、約束を学ぶ

時間の使い方を学ぶ

家庭学習の習慣、学習の定着、興味関心を広げる、中学校定期テストに向けて

②宿題の例

- ・音読
- ・漢字（新出漢字（漢字の学習など）、漢字練習（漢ドなど）
- ・国語（プリントなど）
- ・算数（計ド、算ブ、教科書など）
- ・作文（週1回や2週に1回、行事後など）
- ・自主学習など

通信等で、学校の教え方、やり方を知ってもらうのもいいですね。

タブレットドリルもどんどん活用しましょう。

家であることを原則に、個別対応はあり（量や丸の基準など、合理的配慮）

③宿題をするところ

- ・家です（学童です）

*授業で指導した内容のものを宿題に出す。（計算ドリル…注意！）

④宿題を忘れたときは…

忘れた児童ときちんと話をします。

「なぜ、宿題を忘れましたか。」

「忘れた宿題をどうしますか。」

「次、忘れないためにはどうしたらいいですか。」

・・・など、話し合いの上、その日の内に提出が基本

ただし、必要な個別対応は大切に。

宿題忘れを習慣化させない！工夫が必要

- ・子どもはすぐに忘れてしまうので、休み時間開始時に声をかける。
- ・黒板に名前を書いておく。

・・・などの工夫が必要。

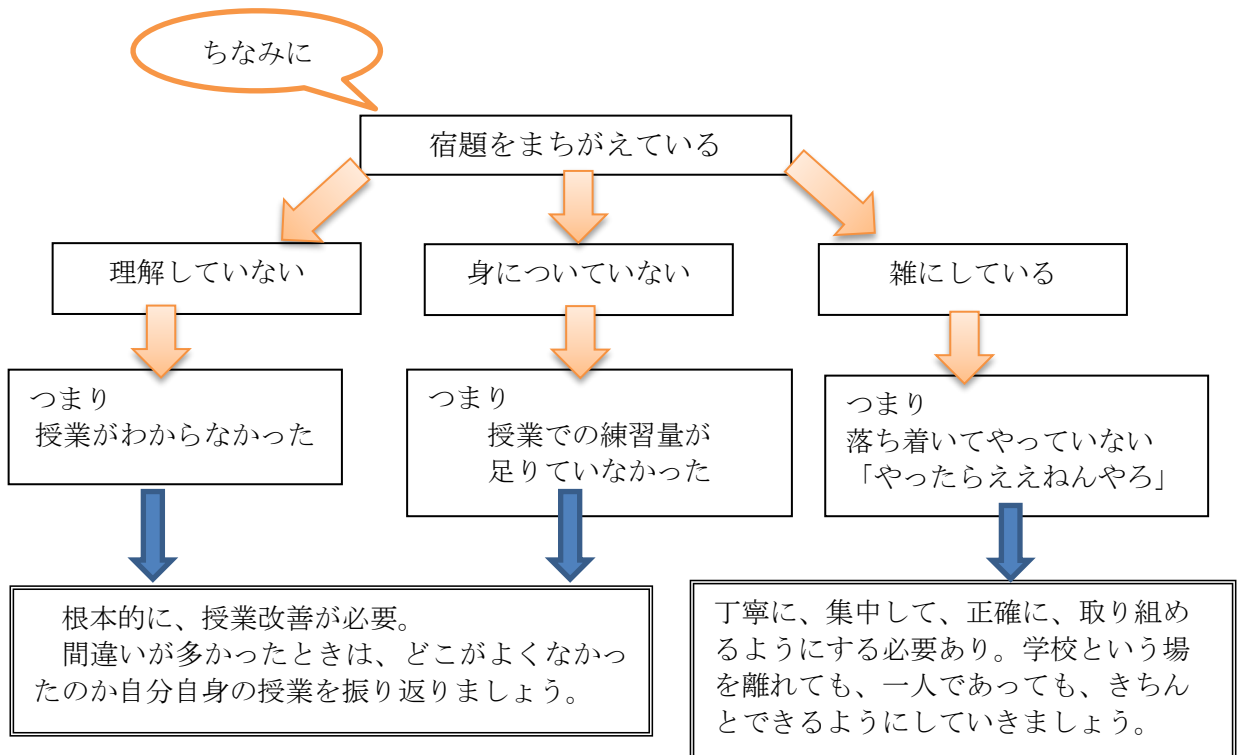
- ・低学年ではできていたのに…だんだんできなくなることが多いです。一度ゆるめてしまうと、なかなかもとには戻りません…。



3. 宿題のおなおい

宿題のおなおいをしっかりとさせる。

- ★どの子ども、「おなおいはしないといけないものだ」と思わせられるような取り組みを。
- ★宿題はその日のうちに丸付け、お直しが完了するように…。
- ★いつまでも、ましがえた箇所がそのままにならないように…。



4. テストのおなおい

テストのおなおいをしっかりとさせる。

答えをくばって終わり…ではなく。
みんなで丸付けをして終わり…ではなく。

個人でもう一度考え直す
まちがいが多かったらもう一度一斉学習をする
友達と教え合いっこをする…など。

友達の教え合いっこ

⇒答えを教える...のではない!

- ◆友達にどのように言ってあげると、その子が考えられる、答えを導き出すヒントになるか考えて伝えられると、本当の意味で、**お互いに勉強**になります。また、それが、**集団づくり**にもつながります。



子どもたちのまちがいが
多いなあ…。教え方のど
こが悪かったかなあ…。

もう一度、授業中にみんな
で確認かな。個別に教
えようかな。練習が少な
いかな。

5. ノート

～わかりやすく、学習の足あとが分かるノートづくりを！～

- ・マス黒板なども使い、わかりやすいノートづくり、学習の足あとが分かるノートづくりの指導。
- ・日付、めあて、ふりかえりを書く。
- ・自分の考えを書く。
- ・算数等では、図や単位をかく。



6. ふりかえり

①目的

- ・ 教師と全ての子どもとのコミュニケーション
- ・ 表現する練習
- ・ 思いを伝え合うことでクラスづくり
(通信での紹介や読み聞かせるなど)
子どもたちに新しい視点を入れる。

②方法

- ・ 連絡帳、HALFノート
- ・ 終わりの会などで交流をする。
- ・ 日々のふりかえり、行事や取組みの後、話し合いをしたときに取組む。

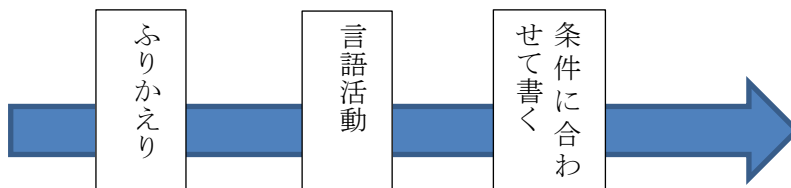
集団づくりに

いかしていきましょう！！

- ⇒ 個人が書いたことを、
どう広げていくか。
- ⇒ 子どもと教師がつながる
だけでなく、**子どもと子
どもをつないでいきま
しょう。**

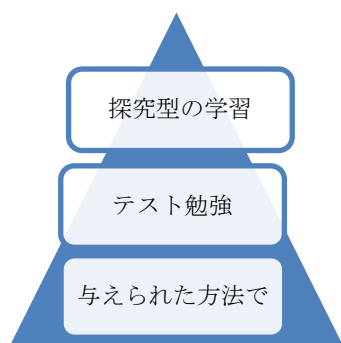
条件に合わせた『書くこと指導』

- ・ ○○文字以内で□□について書く。
- ・ ○○分以内で□□について書く。
- ・ □□について要約する。
- ・ □□の学習、実験を自分の言葉でまとめる。
- ・ ふりかえりを条件に合わせて書く。



7. 自主学習（発達段階に合わせて、全学年で取組む）

- ・目的を明確にするために、めあてとふりかえりを書く。あるいは、予定をたてる。
- ・テスト勉強（まるつけ、お直しまで）
- ・興味のある学習→自ら課題を見つけて取り組む。
- ・内容の紹介（教室、廊下に掲示するなど）



自主学習の目的って...？

⇒ 中学校につなげたいな...

⇒ テスト勉強ができるといい...



児童に計画を提示

(～月～日、～のテストだよ)



(児童) じゃあ、～の勉強をしよう！

8. 教室環境

- ・教室はいつも気持ちよく**整理整頓**をする。
- ・黒板横の**カーテンをしめ**、目移りしないようにする。
- ・宿題などの提出物を出すのに困らないよう、**カゴ**などを用意する。
- ・その日一日の**スケジュールの掲示**をする。
- ・45分の授業ごとに、**めあてを提示**し、学習内容を提示する。



9. 筆箱

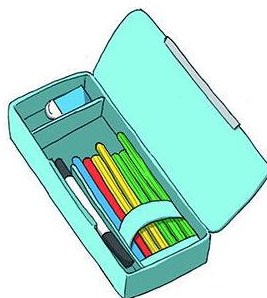
赤えんぴつ1本

黒えんぴつ5本 (家でけずってくる)

ものさし

消しゴム

(名前ペン) …お道具箱でも可



学校用と塾用の筆箱を分けさせる。

キーホルダーやぬいぐるみなどつけない。

10. 持ち物・提出物

- ・きちんと揃わないのは、子どもの責任ではなく、教師の問題。
まずは、教師がわかっていることが前提です。(期限・内容等)
- ・提出日から、逆算をする。(日数の逆算 + 子どもの実態の逆算)

対策

- ・連絡帳にかかせる。(連絡帳をきちんと書く！+きちんと見る子どもに！)
- ・保護者の助けのいるものについては、少なくとも、1週間前に通信で連絡を。
- ・期日より早めにもってこさせて、チェックをする。(特に、自分の授業外のものに関しては、注意が必要)
- ・専科等の授業の持ち物を、毎回、授業のたびに確認させる。黒板の後ろに書いておき、忘れないようにするなど。

それでも忘れたときは・・・

- ・自分の行動をふりかえるような指導を。
「どうして忘れましたか」
「次、忘れないようにするためには、
どうしたらいいですか。」

(忘れ物の多いもの)

- ・習字道具のぞうきん、新聞、ビン
- ・図書の本
- ・調理実習のエプロン
- ・週初めのエプロン
- ・ノートがなくなった時の新しいノート
- ・体操服 等

11. 算数のノート指導について

①日付、ページ数、問題番号をきちんと書く。左1行目に赤線を引く。

ノートは毎日の勉強の足跡。後から見返して復習できるようにしっかり書く。

②計算と計算の間、問題と問題の間をしっかりとる。

横縦は1, 2行あけて、ゆったり使うと、間違いが確実に少なくなる。

③定規を使う。

筆算の線、分数の線は必ず定規を使う。ノートがきれいになる。うっかりミスや位取りのミスが少なくなる。

④文字はくっきりと濃く書く。

ノートがきれいになる。間違いも見つけやすくなり、ミスが減る。

⑤下じきをしく習慣をつける。

⑥消す時は前の字が残らないよう、きちんと消す。

⑦文章題のときは、式、筆算、答えの3点セットが基本。

⑧筆算は、ノートにマスを使ってする。(机に書いたり、小さく書いたりさせない)

学習のため…だけではなく、

ユニバーサルデザインの視点で…。

どの子もわかりやすく活動できるように…

取り組んでいきましょう！

★ノート選定の目安

	国語	漢字	作文帳	自主学習	ふり 返り	算数	理科・ 社会	家庭 科
1 年 生	8マス →10 マス	(50 字)	(12 マス)	☆	連 絡 帳	横長6 マス→ 7マス	☆	☆
2 年 生	12マ ス →15 マス	84字	120 字	☆	H A L F	14マ ス (15 mm)	☆	☆
3 年 生	15マ ス	91字	120 字	5mm 方眼	H A L F	17マ ス (12 mm)	6mm 方眼	☆
4 年 生	18マ ス	91字	162 字	5mm 方眼	H A L F	5 mm 方眼	5 mm 方眼	☆
5 年 生	5 mm 方眼	120 字	162 字	5mm 方眼	H A L F	5 mm 方眼	5 mm 方眼	学 習 帳
6 年 生	5 mm 方眼	120 字	200 字	5mm 方眼	H A L F	5 mm 方眼	5 mm 方眼	学 習 帳

※☆マークは必要ないか、特に決まっていないところです。

※各学年で上記以外に必要なものがある場合は、別途お知らせいたします。